

# 口腔外科手術と顎変形症

責任者名：清水 治(口腔外科学Ⅱ 准教授)

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

清水 治(口腔外科学Ⅱ 准教授)

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

外木 守雄(口腔外科学Ⅰ 教授)

篠塚 啓二(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

田中 孝佳(口腔外科学Ⅰ 専任講師)

## ◆一般目標 (GIO)

口腔外科小手術ならびに顎変形症手術の基本的知識を習得するために、講義を通じて、学術的背景や術式を理解する。

## ◆到達目標 (SBOs)

1. 口腔外科で行う小手術を適切に実施するために必要な手術の基本である切開・止血・縫合に関する基本手技、適応症、禁忌症などを説明できる。
2. 拔牙を適切に実施するために基本手技、適応症、禁忌症などを説明できる。
2. 顎変形症に関して、手術計画の立案や術式選択、それぞれの術式に関して説明できる。
4. 口腔外科で行う小手術で頻度の多い、歯槽骨整形術、小帯の手術、根尖切除術、瘻孔閉鎖術について基本手技、適応症、禁忌症などを説明できる。
5. 顎口腔領域の再建に関する基本手技、適応症などを説明できる。
6. 睡眠障害に関する外科治療において、手技、適応症などを説明できる。

## ◆評価方法

平常試験 30%、定期試験 70%で評価する。なお、平常試験の追・再試は行わない。平常試験のフィードバックは試験終了後行う。

受講態度不良は大幅な減点となることがある。

## ◆オフィス・アワー

要事前連絡

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
清水 治	火・木曜日を除く 17:50~18:50 口腔外科学第Ⅱ講座医局	shimizu.osamu@nihon-u.ac.jp 03-3219-8102	
米原 啓之	火・木曜日を除く 17:50~18:	yonehara.yoshiyuki@nihonu.ac.jp	

	50 口腔外科学第Ⅱ講座講座医局	03-3219-8093	
外木 守雄	火・木曜日を除く 17:50~18:50 口腔外科学第Ⅰ講座医局	tonogi.morio@nihon-u.ac.jp 03-3219-8208	
篠塚 啓二	火・水曜日を除く 17:50~18:50 口腔外科学第Ⅰ講座医局	shinozuka.keiji@nihon-u.ac.jp 03-3219-8102	
田中 孝佳	火・木曜日を除く 17:50~18:50 口腔外科学第Ⅰ講座医局	tanaka.takayoshi@nihon-u.ac.jp 03-3219-8102	

#### ◆授業の方法

授業は対面形式で行う。臨床に則した視覚素材を用い、口腔外科手術の適応、術式や顎変形症の病態、診断を学び、その手術方法を理解する。

【実務経験】清水 治：日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科)

【実務経験】米原啓之：形成外科医の立場から再建外科の理論と術式を理解してもらい、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(形成外科)

【実務経験】外木守雄：豊富な口腔外科臨床経験を踏まえた上で、顎変形症手術の理論を理解してもらい本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科)

【実務経験】篠塚啓二：他施設での口腔外科経験等の話も交えながら、歯科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に活かされるかについて学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科)

【実務経験】田中孝佳：日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での臨床経験等の話も交えながら、基本的な口腔外科手技について学ぶ場を提供したいと考えています。(口腔外科)

#### ◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	口腔外科学	工藤逸郎 他 外木守雄 編	学建書院	2017
参考書	歯科国試パーフェクトマスター 口腔外科Ⅰ	篠塚啓二・外木守雄	医歯薬出版	2020
教科書	最新口腔外科学	榎本昭二 他	医歯薬出版	2017
教科書	口腔内科学	山根源之 他	永末書店	2020

		外木守雄、篠塚啓二 分担		
教科書	有病者歯科学	今井 裕 他 外木守雄、篠塚啓二 分担	永末書店	2018
参考書	イラストで見る口腔外科手術第4 巻	野間博康 他 外木守雄分担	クインテツセンス	2015
教科書	口腔外科学	白砂兼光 他 外木守雄分担	医歯薬出版	2019

#### ◆DP・CP

コンピタンス1：歯科医師としてのプロフェッショナリズム

コンピテンシー：1-2、1-3

対応するディプロマ・ポリシー：DP1

コンピタンス4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-4、4-5、4-8

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

コンピタンス5：医療の実践

コンピテンシー：5-2、5-3、5-4、5-5、5-10

対応するディプロマ・ポリシー：DP5

#### ◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書を読んで、関連領域を含め授業内容を理解しておくこと。

#### ◆準備学習時間

授業50分1コマあたり2コマ分の準備学習時間を以って予習・復習に当てること。

#### ◆全学年を通しての関連教科

第2学年前期：神経、脈管・感覚器、内臓、組織学、生化学、生理学、運動器

第2学年後期：プロフェッショナリズムと行動科学、人体解剖実習、口腔組織学、発生学、口腔生化学、口腔生理学

第3学年前期：感染と免疫、微生物基礎病理、細胞の情報伝達

第3学年後期：医療コミュニケーション、病原微生物と感染症、薬理学総論、臨床口腔病理、歯科放射線学総論、小児の歯科診療の基礎

第4学年前期：薬理学各論・歯科麻酔学各論、歯科放射線学各論、口腔外科治療の実際、医療面接、歯内療法学、歯周病学

◆予定表

注意事項：教科書は必ず持参すること。必要に応じ関連領域である解剖学、組織学、病理学、細菌学、薬理学などの教科書も持参すること。

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.10	7	1.口腔外科手術学 総論	・口腔外科手術学の総論について述べる。基本的な手術手技について説明できる。	清水 治	E-1-5)-10 周術期管理の目的と意義を説明できる。
2		4.17	7	2.手術の基本 1) 切開 2) 止血 3) 縫合	・顎口腔領域での切開では、形態と機能、審美性また術後の瘢痕による機能障害形態の異常に配慮する。 ・動静脈の損傷では確実な止血法を行わなければならない、これらの適応と術式を説明できる。 ・縫合針、ハサミ(剪刀)、鑷子、縫合糸について、その特徴と使用法を説明できる。	田中 孝佳	E-1-5)-④粘膜炎の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。
3		4.24	7	3.抜歯術 4.抜歯時の姿勢・ 抜歯器具	・抜歯とはどのような操作を行うものであるか、そして抜歯の適法症・禁忌症について説明できる。 ・抜歯手技の基本は術者の姿勢にあり、非抜去歯の部位により、術者の手指の固定、患者の頭部の固定がそれぞれ異なることを説明できる。	田中 孝佳	E-1-5)-⑤縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。
4		5.1	7	5.抜歯の基本的術式 1) 普通抜歯 2) 難抜歯(智歯の抜歯も含む)	・上下顎のそれぞれの前歯部、小白歯部、大白歯部について基本的な抜歯術式を説明できる。乳歯の抜歯についても説明できる。 ・難抜歯の症例ごとの術式の基本を説明できる。さらに抜歯創の治癒機転の臨床的経過を説明できる。	田中 孝佳	E-1-5)-①抜歯の適応症と禁忌症(相対的禁忌への対応及び小手術の適応症と禁忌を含む)を説明できる。
5		5.8	7	6.抜歯に伴う偶発症	・麻酔に関する偶発症は正しい麻酔手技、口腔解剖を再認識し偶発症に対する処置法も含めて説明できる。 ・抜歯中に伴う偶発症は術者の不注	田中 孝佳	E-1-5)-②小手術の合併症(偶発症)を説明できる。

					意によることも多く、抜歯術の基本を再確認し、偶発症に対する処置法も含めて理解する。 ・抜歯後の偶発症は、その原因と処置法を理解する。		
6		5.15	7	7.顎変形症手術（手術計画の立案と術式選択）	・顎変形症に対する手術計画立案と術式選択を説明できる。	篠塚 啓二 清水 治	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常
7		5.22	7	8.顎変形症手術（下顎骨手術Ⅰ）	・下顎枝矢状分割術と下顎枝垂直骨切り術について説明できる。	篠塚 啓二 清水 治	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常
8		5.29	7	9.顎変形症手術（下顎骨手術Ⅱ）	・下顎骨体部骨切り術、前歯部歯槽骨切り術、オトガイ形成術について説明できる。	篠塚 啓二 清水 治	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常
9		6.5	7	10.顎変形症手術（上顎骨手術法・上下顎手術）	・上顎骨手術および下顎同時手術について説明できる。	篠塚 啓二 清水 治	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常
10		6.12	7	11.歯槽整形術・小帯の手術	・通常補綴前処置をして行われる本手術の基本的な術式を説明できる。 ・子供の歯列不正、構音障害の予防と改善を目的とする小帯の手術について具体的な時期や術式を説明できる。	清水 治	E-1-5) -③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。
11		6.19	7	12.顎口腔領域の再建	・顎口腔領域の硬、軟組織の欠損に対する再建方法を説明できる。	米原 啓之	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
12		6.26	7	13.根尖切除術	・歯を保存し、病巣を根尖とともに除去する根尖切除術の適法症、術式を説明できる。	清水 治	E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療
13		7.3	7	14.睡眠障害に対する外科治療	・睡眠障害に対する外科的治療法について説明できる。	篠塚 啓二 外木 守雄	E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害

14		7.10	7	15.上顎洞口腔瘻閉鎖術	・上顎洞穿孔後の対応および後遺した瘻孔を閉鎖する具体的な術式を説明できる。	清水 治	E-2-2) 口腔領域の構造と機能
15		7.24	7	16.平常試験・平常試験の解説 平常試験：132 講堂と第1実習室 AB	・本講義を理解するために必要な事項について試験を行う。 ・平常試験の解説 解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。	清水 治 篠塚 啓二	

